

第7回 校長会議あいさつ

R.6.9.18 稲垣

早朝の清々しさにやっと秋の気配かと思えば、日中は未だに夏の日差しの中、ツクツクボウシのラストパートさえ聞こえてきます。学校では、学習にも運動にも、教育活動を最も充実させたい 2 学期を迎えています。子どもたちのエネルギーを最大限に発揮させて、大きく飛躍させてください。

この夏を振り返ってみると、部活動の大会では、小中学校ともに、たくさんのドラマが生まれ、児童生徒の輝きで溢れていました。また、部活動以外でも、素晴らしい姿が幾つも見られました。とりわけ各中学校の代表として議場に立ち、堂々と質疑した中学生議員。聴衆を意識しながら自分の思いをひたむきに届けようとした中学生の主張参加者。例年のこととはいえ、生徒たちの逞しい成長の姿に嬉しくなりました。また、中学生の主張の西三河選考会では、佐久島しおさい学校の黒田空蒼君と鶴城中学校の村木新君が、上位5名に入り、県大会に駒を進めました。そして村木君は、第一席最優秀賞を獲得し、愛知県代表となりました。

今月6日に行われたリーダー養成塾の結団式における、平坂中学校の高橋優輝さんの派遣生代表あいさつにも感心しました。中学 1 年生とは到底思えない、表情豊かで明瞭なスピーチ。3年生のひしめく生徒会役員選挙も闘えるような説得力でした。長年、理事として結団式に参加しているNPOの方たちも、こんなに凄い 1 年生がいるんだと驚いてみえました。後で聞いた話では、平坂中学校では、代表あいさつの希望を参加生徒に尋ねたところ、4人全員の手が挙がりました。これだけでも大したものですが、そこで担当教師が、自分たちで話し合っただけで決めなさいと指導したところ、何と、生徒たちがお互いのスピーチを聞き合った上、合議で決定したのだそうです。

このような中学生のレベルの高い姿を後輩や小学生にも伝えていけると、憧れや目標を抱かせ、成長のモチベーションを高められると思います。また、教師の想定を超えていくような子どもたちの素晴らしい姿に出会うことは、教師にとっても、その後の指導指針として成長の糧となっていきます。今月、市内いずれの学校においても、後期の児童会や生徒会の役員選挙があると思います。丁寧な指導の下に、聞き手の子どもたちの心に訴え、立候補者が信頼を集められるような演説を促して、子どもたち全体の活動意識や表現レベルを引き上げる機会となることを期待しているところです。